

1冊丸ごと大特集 好評第2弾! **ガン**に負けない! 今注目の**最先端療法** 腰痛が驚くほど軽快し 腰支え睡眠

2009

9 520円

ガンに負けない! 今注目の**最先端療法**

- ◆ **ガン**は免疫力を弱める**口呼吸**や冷たいものの多食をやめれば**医師が実証**
- ◆ **あなた**が続けられ**どのガン**になりやすいか**防く秘法**は術かも**No.1**予防法
- ◆ **ガン**が**早期**に見つかると**現れる部位別の**前ぶれ**発見法**と**検診の受け方**

夢21



夏に悩む汗臭さも加齢臭も見事に防ぐ体臭克服**作戦**

- ◆ **ガン**狙い撃ち**副作用も少なく、通院治療もできる**最先端の放射線治療**** 【主女医監修】
- ◆ **ガン**の**再発・転移**を防ぐには**徹底的な生活習慣の玄米食と体の保温**
- ◆ **家族**や**あなた**が**ガン**に**なっても治りが早まる!** 治療法選びも心構えも家族の在り方もわかる **ガン克服法**
- ◆ **若返り栄養****コラーゲン**は**免疫力**を**強めると** **医師もガン**を**克服**
- ◆ **ビタミンC**こそ 世界が注目する天然の抗ガン剤 **ガン**の**予防**と**初期**、**有効な** **No.1**補給法も**発見** 【主女医監修】

怖い脳梗塞
心筋梗塞を見事に防ぐ
本気で
人気の
ジュース

腰痛はどのタイプも**夏の睡眠中**に**悪化**し**防ぐNo.1法**は**腰支え睡眠**

【税込10万円!】
今月号を読めば誰でもわかる
新健康クイズ

若返り栄養コラーゲンは異物を退ける

免疫力を強めると医師もガンを克服

◆コラーゲンにはさまざまな働きがある

鶏の手羽先や魚などに多く含まれているコラーゲン。コラーゲンをとると、肌や髪が美しくなるという話を、みなさんも聞いたことがあるでしょう。私自身もコラーゲンをとっているのですが、それは実感しています。しかし、そのしくみは、一般に考えられているように、肌や髪のコラーゲン

美肌や丈夫な骨を作る成分
「コラーゲン」は、ガンを排除
する体の働きも高めると判明

るからだけではありません。コラーゲンは、私たちの体を刺激して、体の働きを活性化するので、それによって、体内で肌や髪、骨などの再生が促されます。実は、コラーゲンをとれば、ガンを退ける体の働きも高まると考えられます。ここでは、そのことについて説明しましょう。

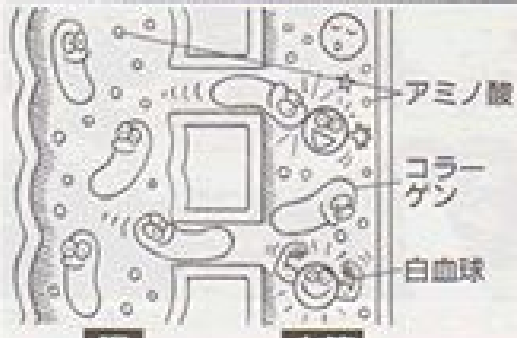
コラーゲンは、私たち人間や動物の毛髪・爪・皮膚・骨内臓・血管などに含まれるたんぱく質の一種。人間の体内にあるたんぱく質の30%、皮膚のたんぱく質の70%がコラーゲンでできています。コラーゲンは、細胞どうしをつないで、器官や組織を形作るのに欠かせません。ほかにも、

コラーゲンには、細胞の活動の調整、止血作用などの重要な役割があります。

◆一部が腸から吸収される

ただし、体内成分としてのコラーゲンの役割と、食事からとるコラーゲンの働きは大きく異なります。私は長年、ガンと免疫（病気から体を守る働き）について研究してきました。その中で、コラーゲンがガン免疫（ガンに対する免疫）を高めることを見出したのです。

ガンを退ける働き



腸の中に入ったコラーゲンは、大半が分解されてアミノ酸になり、血管内に吸収される。しかし、コラーゲンの一部はそのまま血管内に吸収され、免疫の担い手である白血球を刺激して、ガンを排除する働きを高めると考えられる。

たんぱく質の一種。人間の体内にあるたんぱく質の30%、皮膚のたんぱく質の70%がコラーゲンでできています。コラーゲンは、細胞どうしをつないで、器官や組織を形作るのに欠かせません。ほかにも、もつとも、コラーゲンを構成するプロリンは、必須アミ

榎木義祐
榎木義祐



コラーゲンはゼリーなどで手軽にとれる(用ナチン)

ノ酸(体内で合成できないアミノ酸)ではありません。そのため、体内のコラーゲンの材料は、コラーゲン以外のたんばく質からでも転用できます。

コラーゲンをとれば、アミノ酸が補われるため、皮膚や毛髪の再生に役立つことはいうまでもありません。ただし、コラーゲンの働きはそれだけではないのです。

コラーゲンの一部は、分子のまま、腸管を通り抜けて吸収されると考えられます。

このことは、たんばく質の一部が高分子のまま吸収されることを確かめた、ワルツァー博士の実験によっても明らか

です。

実は、このコラーゲンが、体にとつて、とても有益な働きをもたらすのです。

吸収された人間のそれとは異種のコラーゲンは、臓器移植のさいの拒絶反応とかかわる移植免疫の働きを刺激すると考えられます。そのしくみによってガンにも効くと私は見ています。

◆通常の免疫と異なる働き

吸収されたコラーゲンは、免疫の担い手である白血球を刺激し、ガン細胞を排除する白血球の力も強化します。ただし、コラーゲンの抗ガン効

果は、白血球の力を強めるだけではありません。コラーゲンによるガン免疫は、通常の免疫とは異なるといえるでしょう。

例えば、通常の免疫では、病原菌などの有害な異物が侵入すると、白血球が抗体という武器を作ります。そのさい、白血球は、異物の種類に応じて別々の抗体を用意するため、例えば、未知の病原菌が侵入しても、白血球はすぐには働けません。

通常の免疫は、このように特定の異物だけを排除するという特異性の高い免疫です。一方、コラーゲンによるガン免疫は、ガン細胞の種類の違いにかかわらず、排除するという特異性の低い免疫なのです。

免疫学の歴史では、「ガン免疫と移植免疫を混同してはならない」という教えがあります。

それを十分かみしめながらも、私は、コラーゲンによるガン免疫と移植免疫のしくみは根本的に同じもの、裏腹の関係だと考えています。

臓器移植では、他人の臓器

という異物に対して、これを拒絶しようとする体の反応を仰え、組織に定着させようとしています。一方、コラーゲンによるガン免疫では、組織に定着しようとするガン細胞という異物に対して、これを拒絶しようとするのです。

私のこれまでの経験では、コラーゲンは、さまざまな種類のガンに対して効果がありました。

しかし、ガンに有効だったという症例だけでは、「ジャンクンの後出し」のようなもの。私は、コラーゲンがなぜガンに有効なのか、そのしくみの解明に組織的にトライアルしたいと考えています。今明らかにしたのは、コラーゲンが免疫にかかわるとの遺伝子(遺伝をつかさどる本体)を刺激するのか、その遺伝子は移植免疫にもかかわるのかということ。それがわかれば、コラーゲンによるガン免疫と移植免疫が同じかどうかもわかるでしょう。

次の記事では、コラーゲンの抗ガン効果を確かめた、私の研究内容を「紹介」しよう。

コラーゲンを与えた動物実験 では、ガンの発生が8割減り、 ガンの再発・転移も防げた

榎木 義祐

◆コラーゲンに 注目した理由

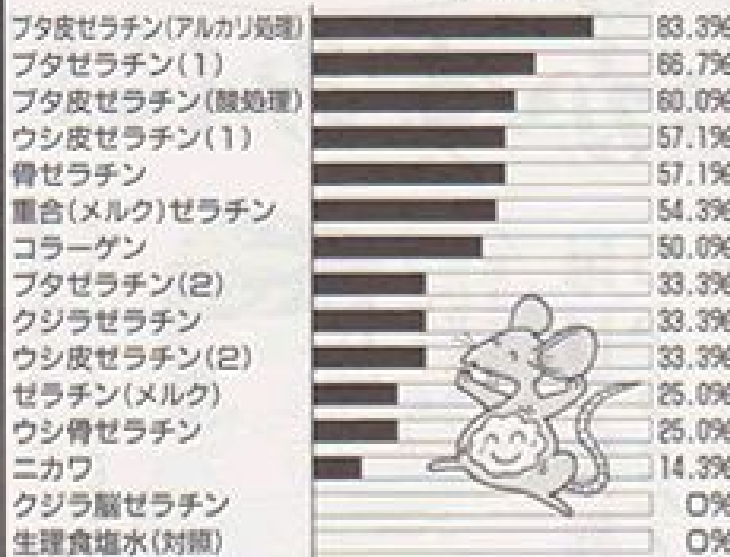
私は、ガンと免疫（病気が
ら体を守る働き）の関係につ
いて、1960年（昭和40）年
から研究を続けてきました。
コラーゲンに注目したきっか

けは、細菌内毒素（細菌に含
まれる毒素）の抗ガン効果で
した。

私は、細菌内毒素を何度も
注射したネズミにガン細胞を
移植し、ガンが取り付いた部
分に再び毒素を注射しまし
た。すると、ガンが縮小・消

失したのです。この方法でガ
ンが治ったネズミに1カ月
後、再びガン細胞を移植して
も定着しません。つまり、この
抗ガン効果は、毒素の成分が
ガンに直接効いたのではな
く、免疫を高める働きによる
ものと考えられたのです。

ネズミの生存率



上記のような14種類のゼラチン（コラーゲン）の水溶液（濃度1%）を0.3ccずつ、1週間おきに3回、ネズミに皮下注射した。3回めの注射の1週間後に、500万個のガン細胞をネズミに皮下移植し、1カ月間観察した。その結果、ネズミの生存率は上記のようになった。

粗製の細菌内毒素は、脂質と多糖体（複数の糖類が結びついたもの）、たんぱく質の複合体です。細菌内毒素のどの成分に抗ガン効果があるのかについて、それまでの研究では、多糖体が注目されてきました。しかし、私は、たんぱく質に着目しました。毒素のたんぱく質の特徴は、熱に強いということでした。熱に強いたんぱく質は、そう多くはありません。すぐにコラーゲンが頭に浮かびました。私は、コラーゲンにも同じような効果があるかもしれないと考え、実験に取りかかったのです。コラーゲンは水に溶け

にくいうえ、成分の一部に種の特異性があるため、原理を考えるのに大きな障害になります。そこで、私は、ゼラチンから実験を始めました。ブタやウシ、クジラなどからとった14種類のゼラチンを、それぞれ水に溶かして濃度1%の水溶液を作りました。そして、14種類の水溶液をネズミに何度も注射し、そのあとで、エーリッヒガン（実験用のネズミのガン細胞の一種）をネズミに移植したのです。

すると、ゼラチンを注射したネズミは、ゼラチンの種類によって差があったものの、ガンの発生率が明らかに下がりました。一方、ゼラチンを注射せずにガン細胞を移植したネズミは、すべて死んでしまいました。

14種類のゼラチンの中で特に効果が大きかったのは、ブタ皮のゼラチン。ブタ皮のゼラチンを注射したネズミは、なんと約90%が生き残ったのです。また、ネズミに対してネズミのゼラチンを試してみたところ、全く効果がありませんでした。ゼラチンは、高

分子のものや低分子のもので試したところ、抗ガン効果は、高分子化すると高まり、低分子化すると低下しました。

生き残ったネズミに再びガン細胞を皮下移植すると、1週間でガン細胞に凝固壊死（組織が急速に下からびて死ぬ現象）が起こりました。また、腹腔（腹部の内臓の部分）にガン細胞を移植すると、免疫を担うマクロファージ（白血球の一種）がガン細胞のまわりに取り付きました（この現象をロゼット形成という）。ガン細胞は、4時間で腹腔から回収不能となったのです。

ろ、ガン細胞はやはり定着しませんでした。つまり、生き残ったネズミは、ガンの再発・転移も100%防いだのです。

エーリッヒガンを拒絶したネズミは、サルコマー180という違う種類のガンも拒絶し、定着するはずの同系の皮膚移植も拒絶しました。その後の実験で、ガン細胞を移植する前にゼラチンを注射したほうが、移植後に注射するよりもガンの定着率が低下することもわかりました。ただし、この性質は、次世代のネズミには遺伝しません。

こうした実験の結果から、コラーゲンは、免疫を高める働きによってガンを退けるこ

とが明らかになったのです。

◆どんな種類のガンにも有効

私は初め、コラーゲンの抗ガン効果は、マクロファージの活性化によるものと考えていました。コラーゲンには、マクロファージを活性化させる働きがあるからです。

ところが、同じようにマクロファージを活性化する流動パラフィンという成分には、抗ガン効果が全くありません。このことから、マクロファージを活性化する働きは、少なくとも抗ガン効果の中心ではないと判断できました。

さらに、前の記事でも述べたように、コラーゲンによる免疫は、通常の免疫とはさまざまな点で異なっているのです。私は、コラーゲンの抗ガン効果は、拒絶反応やアレルギーの免疫反応と根本的に同じと考えます。

私は、ガンの患者さんに可能なかぎり、手術を受けるように助言しています。そして、手術後の人や手術ができなかった人、ガンが再発・転移した人には、治療の一助と

してコラーゲンを、特にブタ皮のコラーゲンを、1日10gとるようすすめています（市販のゼラチンでもよい）。

コラーゲンは、板状のものもありますが、粉末状のものがとりやすいでしょう。コラーゲンは熱に強いので、加熱調理しても問題ありません。コーヒーや緑茶・スープに入れたり、ゼリーにしたりして、工夫しながら毎日とるといいでしょう。

コラーゲンをとれば、ガンを排除する体の働きを高めることが期待できます。実際に、コラーゲンをとっただけで、膀胱ガンも転移したガンも消えた70代の男性がいます。胆道ガンで死を目前にした70代の女性が、コラーゲンをとって旅行にいけるほどに改善した例もあります。このほか、コラーゲンは、胃ガンや喉頭ガン・乳ガン・肺ガン・肝臓ガン・前立腺ガンなどにも効果を現しました。

実は私自身、コラーゲンによって下咽頭ガンを克服した経験を持っています。そのことについては、次の記事で、くわしく説明しましょう。



コラーゲンをとっている横木義祐院長

★ 昭和21年10月号は白濁（白濁病）です。ただし、北海道・九州各県には白濁病が

コラーゲンをとったら、1円玉大の下咽頭ガンが4カ月で消え、20年間も再発がない医師の私

榎木 義祐

◆55歳のとき ガンを発病

私は、医師だった父の跡を継ぐと大阪医科大学に入学し、山中太木教授（のちの大阪医科大学学長）の教室に入りました。そこで、免疫（病気から体を守る働き）とガン、アレルギーなどの関係について研究を行ったのです。

大阪医科大学講師を務めたあと、大阪府で医院を開業したのが43歳のときのこと。それ以来、アレルギー科・内科・小児科の診療のかたわら、免疫の研究を続けてきました。

特に力を入れたのは、ガンに対する免疫の研究。なぜなら、私自身、ガンへの関心が一・二倍高かったからです。私は学生のころから、自分が将来、甲状腺ガンになるのではないかと考えていました。というのも、父のときと首の

リンパ腺が腫れ、その治療で放射線を照射されたからです。

当時は、放射線がさまざまに病気に有効とされ、治療で盛んに使われていました。ところが、そうした治療法は、発ガンのおそれがあるかわかり、戦後間もなく行われなくなりました。

55歳のとき、私は、少しずつ体重が減りはじめていることに気づきました。さらに、のどの奥のほうにかなかな違和感も覚えるようになりました。

専門医に診てもらおうと、咽頭に1円玉ほどの大きさの腫瘍ができて、いるとのこと。検査の結果、下咽頭ガンとわかりました。

下咽頭ガンは、手術をすれば声が出なくなるので、放射線と抗ガン剤で治療することにしました。

そこで、まず4週間、土日

以外は毎日、放射線治療を受けました。ただし、放射線科の医師からは、「放射線による発ガンの場合、放射線治療はあまり効かない」といわれました。

そのときの放射線治療は、ひどい痛みを伴うつらいものでしたが、医院の診療は休みませんでした。

◆抗ガン剤の代わりに コラーゲンをとった

放射線治療を終えると、抗ガン剤治療を行う予定でしたが、実は、私は抗ガン剤を飲みませんでした。

抗ガン剤は、確かにガンに有効です。しかし、ガンに効くこととガンが治ることは違うことです。治るとは、免疫力を高めてガンを根絶させること。抗ガン剤は、延命効果はもたらしても、ガンを治すわけではないと、私は考えていました。

抗ガン剤の代わりに、私はブタ皮のコラーゲンを毎日10gずつとりつけました。ネズミで行った自分のコラーゲンの研究結果を信じていたからです。すると、直径2cm近くあったガンが、コラーゲンをとりはじめてから4カ月で消えました。

その後も、コラーゲンを毎日10gずつ3年間とりつけ、4年め以降は、週に4、5日程度とるようにしました。現在でも、コラーゲンを週3回ほどとっています。そのおかげか、ガンは約20年間再発していません。

コラーゲンは、人肌以上の温度で溶けるので、コーヒーやスープなどに入れるのがおすすめです。お米に加えて、「コラーゲンご飯」にしてもおいしく食べられます。

私はよく、コラーゲンをコーヒーマシンのフィルターに入れて使います。少量の水に粉末状のコラーゲンを5gほど入れてふやかします。それにインスタントコーヒートップ一杯の水を加えて湯せんし、コラーゲンを溶かしてから冷蔵庫に入れます。一晩寝かせれば出

来上がりでです。
注意したいのは、生のパイナップルやキウイフルーツ。これらは、たんぱく質を分解する成分を多く含むので、カラーゲンといっしょにとらないほ

うがいいでしょう。
ガンの予防や再発・転移を防ぐため、あるいはガンの治療の一助として、カラーゲンを試してみることをおすすめします。



今も元気の横木義祐院長

前立腺ガンといわれたが、
カラーゲンを4カ月とって大学
病院で再検査したら異常なし

横木義祐

◆何の治療もしなかつた

私のすすめでカラーゲンをとりつづけ、ガンに効果があった患者さんの例は少なくありません。

京都府に住む酒井利夫さん(仮名・70歳)は、検査で前立腺ガンの腫瘍マーカー(ガンの有無を示す数値)が高くなったため、市民病院で5カ所の前立腺の組織検査を行いました。すると、5カ所からガン細胞が検出されたといえます。

酒井さんは、「カラーゲンがガンにいい」という話を聞いて、ガンの治療を受ける前に、カラーゲンを毎日とってみました。すると、4カ月ほどで腫瘍マーカーの値が下がったのです。

酒井さんは、市民病院にもう一度、組織検査をしてほしいと頼んだのですが、医師からは、手術を受けるようお願いされたそうです。
酒井さんは、私のところに相談にやってきました。そこで、私は、酒井さんに知り合いの大学病院を紹介したので

断然お得な「優遇会員制」

詳しくは130ページをこらんでください

麦飯石の入浴剤

美濃(岐阜県)で採取された貴重な天然石「麦飯石」で作られた、医薬部外品の入浴剤

- 麦飯石の入浴剤は、疲労回復・肩こり・神経痛・リウマチ・あせも・汗斑・ひび・しもやけに効果が認められた医薬部外品の入浴剤です。
- 浴用水100ℓに湯たたり、六一〜一二ℓを入れ、二〇分ほど置いた後に「入浴」してください。



●商品名「美濃」

4,800円 (230g)
医薬部外品

携帯電子針

プロが行う「ツボ刺激」の効果が自宅で簡単に得られるように開発された最新型の治療器

- 万年筆型(長さ21センチ)なので、持ち運び便利。先端をツボに当ててボタンを押すと、ごく微弱の電気が流れる水が刺激されます。
- 特に、肩こりの改善に有効です。医療器具として国産の品質が保証されています。



●商品名「ハリボーイ」
2,400円
医療用器具製造承認番号 201009Z-Z00126000

株式会社 マキノ

TEL03-5965-6721 FAX03-5965-6731

●お電話いただいた場合は、随時郵送させていただきます。また、お近くの「マキノ」営業所もございます。



コラーゲンを積極的にとろう

す。
その病院で日方所の前立腺の組織検査を行ったところ、ガン細胞は検出されなかったのです。

酒井さんは何の治療もせず、コラーゲンでガンが消えたわけです。

◆悪性リンパ腫も1年で消えた

高校生のころの友人の奥さんで、大阪府に住む赤松喜子さん（仮名・76歳）という女性がいいます。実は、赤松さんも40年ほど前、コラーゲンでガンを克服した一人なのです。

赤松さんは、首の悪性リンパ腫で手術を受けましたが、そのときはすでに手遅れで、医師から余命半年と宣告されていました。

そこで、私が、治療を受けながらコラーゲンを大量にとるようすすめたところ、1年ほどでガンが完全に消えたのです。

赤松さんは今も元気です。友人は、私のところに来ると決まって、「本当は、ガンというのは誤診だったんやないか」といいます。

しかし、大学病院での診断の結果なので、ガンだったことには間違いありません。

ゴルフボール大の肺ガンが、
コラーゲンを毎日とったら、
4カ月で米粒大にまで縮小

榎木義祐

◆手術もできないほどのガンが大幅に改善

半年ほど前、大阪府に住んでいる西川京子さん（仮名・76歳）が、私のところを訪ねてきました。西川さんは、私の小学校の同窓生です。話を聞くとこの主人の高志さん（仮名・76歳）に、ゴルフボール大の肺ガンが見つかったとのこと。高志さんは、もう手術ができない状態で、病院に入院し、抗ガン剤治療を受けていたのです。その副作用で、頭髪はすっかり抜け落ちていました。

私は、高志さんに、治療を受けながらコラーゲンを毎日とるようすすめました。すると、それから4カ月ほどして、京子さんから連絡がありました。検査を受けたところ、肺ガンが米粒大にまで小さくなっていったというのです。京子さんはとても喜んでいました。

◆余命3カ月のガンが回復し1年後に退院

兵庫県で喫茶店を営んでいた高島光代さん（仮名・56歳）は、肺ガンが肝臓、さらに脳にまで転移して、医師から余命3カ月と宣告されました。

脳に転移したガンは、脳の形がゆがむほど大きくなっていました。高島さんは死を覚悟し、同居していたお母さんに老人ホームに入ってもらい、喫茶店と自宅を処分して、病院に入院しました。

私がコラーゲンをすすめたところ、高島さんは「ダメでもともと」と思い、抗ガン剤治療を受けながらコラーゲンをとりつけたそうです。すると、CT（コンピュータ断層撮影）検査で脳の形が元どおりになり、肺や肝臓のガンも消え、1年後には退院できたのです。病院の医師も驚いていたそうです。